

( 7 月 )

月 日	午前 (10:00~12:30)	講師等	午後 (14:00~16:30)	講師等	備 考
2 / (水)					
2 (木)	広域事務組合視察 ( 福井地区消防組合 )				
3 (金)					
4 (土)	フリー				
5 (日)	フリー				
6 (月)	危険物業務	東消 予防部	業務業務	東消 予防部	
7 (火)	予防業務	東消 予防部	建築行政と消防	東消 予防部	
8 (水)	航空隊見学	東消 航空隊	空港消防施設見学	運輸省航空局	
9 (木)	消防広報	東消指導広報部	消防設備統制 救急業務	東消 救急部	
10 (金)	千葉市消防局見学				
11 (土)	フリー				
12 (日)	フリー				
13 (月)	救急業務	東消 救急部	消防活動訓練見学	東消 救急部	
14 (火)	火災原因調査	東消 予防部	超高層ビル・地下街等見学	東消 新宿署	
15 (水)	救急業務 本消防署見学	東消 救急部	臨港消防署見学	東消 臨港署	
16 (木)	通信機器メーカー見学	日本電機			
17 (金)	旅行ガイダンス	消防課	消防機器メーカー見学	日本機械工業	
18 (土)	フリー				
19 (日)	移動日				広島泊
20 (月)	広島市消防局見学				神戸泊
21 (火)	神戸市消防局見学				京都泊
22 (水)	京都市消防局見学				大阪泊
23 (木)	大阪市消防局見学		(消防機器メーカー見学会 - -	森田ポンプ)	名古屋泊
24 (金)	名古屋市消防局見学		(石油コンビナート等見学会 - -	中部電力)	名古屋泊
25 (土)	移動日				
26 (日)	フリー				
27 (月)	消防機器メーカー見学	能興防災			
28 (火)	国会等見学	消防課	予備		
29 (水)	横浜市消防局見学		(関東地区救助技術大会見学会)		
30 (木)	ファイナルレポート				
31 (金)	ファイナルレポート				

( 8 月 )

[illegible]

消 防 施 設 名	郵便番号	住 所	電 話	備 考
消防大学校	181	三城市中原3-4-1	0422-46-171	
消防研究所	181	同上	0422-44-8331	
東京消防庁	100	千代田区大手町7-3-5	212-2111	
東京消防庁人事課第二係	同上	同上	212-2111内4422	東消担当
東京消防庁司令部司令室管理係	同上	同上	212-2111内4614	警防関係
東京消防庁予防部予防課計画係	同上	同上	212-2111内5213	予防関係
東京消防庁予防部危険物管理係	同上	同上	212-2111内5263	危険物関係
東京消防庁予防部査察課 査察計画係	同上	同上	212-2111内5313	査察関係
東京消防庁予防部調査課 損害調査係	同上	同上	212-2111内5353	調査関係
東京消防庁救急部救急管理課 救急管理係	同上	同上	212-2111内5113	救急関係
東京消防庁消防部広報課 広報係	同上	同上	212-2111内5413	広報関係
東京消防庁装備部管理課管理係	同上	同上	212-2111内5613	機械関係
東京消防庁装備部整備工場資材係	151	渋谷区幡ヶ谷一丁目3番20号	466-2571内413	機械整備関係
東京消防庁装備部航空隊管理係	136	江東区新砂三丁目地先/4号その/埋立地	521-5811	航空隊関係
東京消防庁消防学校校務課庶務係	151	渋谷区西原二丁目5/番/号	466-1511内2113	学校関係
東京消防庁消防学校教養課初任教養係	同上	同上	466-1511内256	教養関係
東京消防庁消防科学研究所 第一研究室庶務	同上	渋谷区幡ヶ谷一丁目3番20号	466-1511内3113	研究研究関係
東京消防庁消防部防災課管理係	181	千代田区大手町一丁目3番5号	212-2111内4613	防災関係
東京消防庁消防部消防団課団務係	同上	同上	212-2111内4913	消防団関係
東京消防庁PRセンター	151	渋谷区幡ヶ谷一丁目3番20号	466-1511内386	広報関係
千葉市消防局総務課総務係	280	千葉市真砂一丁目2番/号	0472-77-1111	担当・宮本
安房郡市広域市町村圏事務組合総務課	294	館山市北条/087-1	04702-2-2233	担当・丸
横浜市消防局総務部総務課庶務係	240	横浜市長土ヶ谷区川辺町2-9	045-331-1212	小山庶務係長
横浜市消防訓練センター	245	横浜市戸塚区深谷町777	045-852-4771	
川崎市消防局総務部庶務課庶務係	210	川崎市南町20-1/5	044-244-8351	石島係担当
名古屋市消防局総務部総務課庶務係	460	名古屋市中区丸の内三丁目/番/号	052-961-1111	岡島・かじた
京都市消防局総務部庶務課庶務係	604	京都市中京区押小路通寺町東入堀木町/0/...	075-231-5311	目本・目黒担当
大阪市消防局総務部総務課広報係・庶務係	550	大阪市西区西長堀一丁目/2番	06-531-0601	
神戸市消防局庶務課庶務係	650	神戸市生田区加納町6-7	078-391-6931	中村・森元
東京消防庁臨港消防署管理係	104	中央区勝どき五丁目/番23号	534-0119内23	消防団関係

消 防 施 設 名 等	郵便番号	住 所	連絡電話 (出張所) (本署)	備 考
東京消防庁 消防署 消防出張所 (管理係)	144	大田区羽田空港一丁目/番2号	743~8119	航空消防関係
東京消防庁 丸の内消防署 総務課 管理係	100	千代田区大手町一丁目3番5号	215~0119	モデル消防署
東京インターナショナルセンター (T.I.C)	162	新宿区市ヶ谷本町42~1	267~2311	消防場所
日本電機株式会社 海外業務部 (小林孝雄)	108	港区芝五丁目33番/号	454~1111	山形・越後
森田ポンプ株式会社 輸出部 (藤井真一郎)	544	大阪市生野区小阪東5丁目5番20号	06~751~1351	海保担当・水谷
運輸省航空局 東京空港事務所 総務部 消防課	144	大田区羽田空港二丁目3番/号	747~0511内238	関課長担当
日本機械工業株式会社 業務課 (米田信夫)	192	八王子市中野上町二丁目3/番/号	0436~22~7281	芳賀担当
能美防災 商品事業部 海外課	102	千代田区九段南四丁目7番3号 (本社)	265~0211	次長・海外課長
全国消防協会	同上	千代田区飯田橋三丁目/番/3号 豊国ビル内	234~1321	海林
日本消防協会	105	港区虎ノ門二丁目8番/0号 第5森ビル内	503~1481	松尾
日本消防協会	181	三鷹市中原三丁目/4番/号	0422~44~7471	機器設定関係
国際協力事業団 研修第一課	160	新宿区西新宿二丁目/番 新宿三井ビル内	346~5158	外川・平
本田技研工業株式会社 (代表取締役社長)	350~13	狹山市新狹山/~/0~/ (狹山工場) 社長・河島喜好	0429~53~4111	
全国消防機関協会	111	台東区浅草三丁目25番7号 消防会館3階	866~1775	鎌田
タワーサイドホテル (神戸市宿泊時)	650	神戸市生田区波止場町/番地	078~351~2151	
新東京観光株式会社	171	豊島区要町三丁目25番	955~8404	レンタカー
平砂施グラントホテル (館山市宿泊時)	294~03	館山市坂井772	04702~9~1111	
社団法人 日本自動車工業会	100	千代田区大手町一丁目6番/号 再務理事・中村俊夫	216~5771	井上室長
グリーンホテル (大阪宿泊時)			06~532~1091	自宅
平 盛 三			0473~53~1329	
NEC横浜工場 (事業場)		横浜市緑区池辺町4035	045~932~1111	
本田技研海外広報部			499~0111	小和田・渡辺
能美防災 (株) メヌマ工場		埼玉県大里郡蕨町大字 蕨5058メヌマ工場	0485~88~1531	阿部
外川 徹 (JICA職員・研修担当)		JICA本部 (346~5158)	336~3446	自宅
ホテル「リッチ京都」 (京都宿泊時)		京都市下京区河原町通り五条	075~341~1131	¥5,500
ホテル「リッチ名古屋」 (名古屋宿泊時)		名古屋市中区栄 2~3~9	052~231~5611	¥4,800

## 56年度集団コース/610 消防行政

### コース 評価会要約

担当(外川)

日 時 昭和56年8月3日

場 所 第5会議室

出席者 消防庁消防課 ・小嶋公司, 研修監理員 戒能康夫, 佐藤直記, 研修第一課 外川 徹

#### I G. I.

○来日前にG. I. を読んだか。読まなかったのはなぜか？

・概ね読んだ

○G. I. へのコメント

・ナ シ

#### II ブリーフィング

○有益であったかどうか。

・YES

○ブリーフィングへのコメント

・ナ シ

#### III オリエンテーション

○有益であったかどうか。

・YES

○オリエンテーションへのコメント

・ナ シ

#### IV 生活状況

○来日前の準備について

・ナ シ

○宿舎についてのコメント(TIC)

・ナ シ

○食事, その他についてのコメント

・ナ シ

#### V 研修一般

○期間について, 不適の場合その理由

・一部に延長の要望もあったが特にさしたる根拠なし

○研修プログラム(講義, 実習, 見学の配分)等について

・良い

## V 講 義

- 科目、トピックについてのコメント
  - ・ナ シ
- 講義の判りやすさについて
  - ・殆ど通訳を介するため監理員の通訳能力に負う所大である。
- 講師についてのコメント
  - ・ナ シ
- 講義法、使用教材について
- 他に希望される科目、トピック
  - ・比国研修員より放火犯罪捜査等も学びたいという要望あり。

## VI 見 学

- 有益であったかどうか、その理由
  - ・有益である。各消防局の地域的特性がわかるから
- 他に希望される見学先、人気の無かった見学先とその理由
  - ・コンビナート

## VII 実 習

- 有益であったかどうか、その理由
  - ・実際の機器に触れ質疑応答出来たことを非常に満足している。
- 他に希望される実習、人気の無かった実習とその理由
  - ・ナ シ

## IX カントリーレポート

- 来日前に作成したかどうか、作成しなかったのはなぜか。
  - ・概ね作成した。
- カントリーレポートは有益であったかどうか。
  - ・現行ではカントリーレポートは生かしていないが次回から発表会をやるなりして生かしたい。
- カントリーレポートに対するコメント
  - ・ナ シ

## X 研修監理員

- 監理業務に対するコメント
  - ・ナ シ
- 監理員に対するコメント
  - ・ナ シ

## XI 日本についての印象

- 滞在中一番困った事はなにか

ナ シ

- 来日前と来日後の日本の印象について

ナ シ

## XII 総合評価

- このコースを発展させるための研修員の提言

Discussion並びに消防関係技術者と直接質疑応答をしたいと言う声多し。

- このコースに対する研修員の総合的な意見

プログラム、監理員、関係者のHospitalityには至って満足している。

## XIII ファイナルレポート

- ファイナルレポートの中で特に注目しておく点。

上記に同じ

## XIV 評価会

- 評価会に参加しての担当のコメント

研修員の意見をすいあげ次年度にフィードバックさせるためにもっと十分な準備をして評価会に臨みたかった。

## XV その他

- このコースについてその他コメントしておく点

### 1. プログラムについて

導入講義、包括的講義（地方自治制度、消防の歴史etc）の後都内近郊見学、続いて予防、救急、査察等各テーマ毎の講義続いて関西旅行、総括的講義とこの何年かは伝統的にこのパターンで実施しているがその座学、見学の配分は研修員を飽きさせず又座学で学んだものがすぐに現場で生かされる等、最適のものである。

### 2. Discussion

本コースは特にDiscussionの時間を設けていないが次年度は（勿論周倒な準備が必要であるが）カントリーレポートをたたき台に研修員同志或は消防関係者を混えてDiscussionを試みるのも良いと思う。

### 3. 監理業務について

消防の分野では英語を解する人、特に講義するまでのレベルにある人が少く、本コースはその殆どを研修監理員の通訳に委ねている。特殊用語の多いこの分野は当該分野に相当精通した監理員或は相当周倒な準備をした監理員が望まれる。

警-1	コース名： 国際捜査セミナー（準高級）	定員 16名																																																																																																
<p>受入期間： 56. 6. 4～56. 7. 3</p> <p>関係省庁： 警察庁・刑事局・国際刑事課</p> <p>受入機関：</p> <p>国別応募状況：</p>																																																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>国 名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> <th>国 名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インドネシア</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>チュニジア</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>大韓民国</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>フィリピン</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>マレーシア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>中国</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ネパール</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>パキスタン</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スリランカ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シンガポール</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>タイ</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>香港</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジャマイカ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>パプア・ニューギニア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エジプト</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>メキシコ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サウディ・アラビア</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>トルコ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数	インドネシア	4	1	チュニジア	0	0	大韓民国	1	1	フィリピン	2	2	マレーシア	1	1	中国	0	0	ネパール	1	1				パキスタン	2	1				スリランカ	1	1				シンガポール	2	2				タイ	2	1				香港	1	1				ジャマイカ	1	1				パプア・ニューギニア	1	1				エジプト	1	1				メキシコ	0	0				サウディ・アラビア	0	0				トルコ	0	0			
国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数																																																																																													
インドネシア	4	1	チュニジア	0	0																																																																																													
大韓民国	1	1	フィリピン	2	2																																																																																													
マレーシア	1	1	中国	0	0																																																																																													
ネパール	1	1																																																																																																
パキスタン	2	1																																																																																																
スリランカ	1	1																																																																																																
シンガポール	2	2																																																																																																
タイ	2	1																																																																																																
香港	1	1																																																																																																
ジャマイカ	1	1																																																																																																
パプア・ニューギニア	1	1																																																																																																
エジプト	1	1																																																																																																
メキシコ	0	0																																																																																																
サウディ・アラビア	0	0																																																																																																
トルコ	0	0																																																																																																
<p>受入担当： 立石 俊一・河野愛一郎</p> <p>コーディネーター： 青木 秀之</p>																																																																																																		





担当所見（プログラム・研究員寸評・受入先等の対応、生活面等）

- イ、プログラム 特に問題なし
- ロ、研究員寸評 一部英語に弱い研修員はいたが、性格等はまったく問題なし。
- ハ、受入先の対応 麻薬セミナーの担当補でもある杉水氏が代表格であるが、過剰なサービスが過ぎる。
- (イ) 写真を撮りまくり、JICAの金で研修員にわたそうとする。
  - (ロ) 研修員から要求されるコピー、資料等を直ぐそろえようと大騒ぎをする。
  - (ハ) 安いカメラ屋等を紹介し、逆に一部の研修員からはその繁がりに興味を持たれている。
  - (ニ) JICAの金で会議をハデにやりたがる（箱根旅行）
  - (ホ) 旅行は名所見学としか考えていない。

改善・検討すべき課題

1. 中間エバリュエーションの廃止、縮少 毎回箱根等で1泊2日の小旅行を実施し、中間エバリュエーションの名目で宴会を開いているが、当然のように効果は高いけれども、場所を宿泊費の低い地域に移し、会議費も低くした方が良い。  
(今回は1泊2食付という名目で研修員からも出費させた上、JICAより83,940円出費している。1人当り $83,940 \div 26 = 3,230$ )
2. 研修旅行同行者は(JICA負担分)数の縮少  
箱根3名。 関西2名
3. 準高級コースのため、小国からは同一人物が応募せざるを得ない。香港

国際捜査セミナー日程表 (1981年)

昭56. 5. 22

国際刑事課

月日曜	午 前 (10.00~12.30)	午 後 (14.00~17.00)	
6月9日 火	・開講式(刑事局長) ⑫・オリエンテーション (国刑・柳沢課長補佐)	⑮・日本の警察制度—警察と市民 (国刑・柳沢課長補佐)	サンルート ⑩東京
10 水	①・刑事警察の組織と運営 (捜一、竹花課長補佐)	⑬・見 学 ・警察大学校 ・刑 務 所	"
11 木	①・刑 事 手 続 (調査統計官)	①・暴力団犯罪に捜査 (捜査第二課長)	"
12 金	①・警 察 通 信 (通信総務課長)	⑬・見 学 ・ICPO通信所 ・最高裁判所	"
13 土			"
14 日			"
15 月	①・刑事警察におけるコンピュータ利用 (捜一、西山課長補佐)	⑬・見 学 ・電算機工場	⑩ "
16 火	①・鑑 識 制 度 (鑑識課長)	⑬・指 紋 鑑 識 ・(指紋センター所長)	"
17 水	・公 館 連 絡	⑬・警視庁の活動(映画使用) ・通信指令本部(P.14)	⑩ "
18 木	⑬・警視庁 現場鑑識班 警視庁 科学捜査研究所	⑬・警視庁 機動捜査隊 ・警察署・派出所	"
19 金	⑬・研 修 旅 行(箱根方面)		⑩ "
20 土	研 修 旅 行(箱根方面)		"
21 日			"
22 月	①・国際捜査協力 (国際刑事課長)	⑮・参加者の発表 ⑤	"
23 火	⑮・参加者の発表 ⑤	⑮・参加者の発表 ⑤	"

月日	曜	午 前 ( 1 0 0 0 ~ 1 2 3 0 )	午 後 ( 1 4 0 0 ~ 1 7 0 0 )	
24	水	㊦・参加者の発表 ㊤	㊦・見 学 ㊤ ・通信機工場	サンルート ㊦東京
25	木	㊦・参加者の発表 ㊣	㊦・参加者の発表 ㊤	"
26	金	㊦・参加者の発表 ㊤	㊦・参加者の発表 ㊤	"
27	土	㊣ 研 修 旅 行 ( 鳥 羽 泊 )		"
28	日	㊣ 研 修 旅 行 ( 京 都 泊 )		
29	月	㊣ 研 修 旅 行 ( 京 都 泊 )		㊦
30	火	㊣ 研 修 旅 行		
7月 1日	水	㊦・総合検討会 ( 国刑・柳沢課長補佐、北沢専門官 )	㊣・閉 講 式 ( 刑事局審議官 )	㊦

- 凡例： ㊦ 英語による講師又は主宰  
㊣ 研修管理員による通訳  
㊠ 逐次通訳者による通訳  
㊤ 速記者による速記  
㊦ 行 事 ( レセプション )

備考： 「参加者の発表」は国際刑事課長が出席し、国刑・柳沢課長補佐が司会を行う。

#### 評 価 会 要 旨

1. 全般的なプログラムについては良ろしい。
2. 講義時間を縮少し、Q and A の時間を増やしてほしい。
3. 講義を視察の組合わせは全体的に良  
但しどのコースでも出る要望だが全員一諸でなくグループ化を望んでいる。
4. 日本側研修員参加については好意的である。
5. 講義時間を繰り上げ早く1日を終わりたいとの希望が多い。
6. カントリー・レポートのテーマを各国ごとに分けると良い。

56年度 国際捜査セミナー研修員FINAL REPORT

(ま と め)

評 価 点	問 題 点	要 望
<p>○全般的にプログラミングがよかった(0)</p> <p>○視察等が有益であった。(7)</p> <p>○研修旅行 " (5)</p> <p>○各研修員の発表が効果的であった(1)</p> <p>○コンピュター、「指紋」に関する研修がよかった。</p> <p>○"International Criminal Investigation Assislame" (4)</p> <p>に関する講義がよかった。(1)</p> <p>○「最高裁」訪問。(2)</p> <p>○スライドを使った研修が効果的。(2)</p>	<p>○ language barrier (通訳の不正確、研修員のコミュニケーション ションギャップ等) (3)</p> <p>○「警察学校」訪問は短かすぎた。(1)</p> <p>○ lecture後の discussin time 少ない。(1)</p> <p>○大使館との連絡のための時間少ない。(1)</p>	<p>○研修期間をもっと長く(12週間) (1)</p> <p>○研修開始時間、朝早くしてほしい(インドネシア)</p> <p>○各分野に分かれての attachment 研修をしてほしい。(1)</p> <p>○成人・青少年の更生施設の見学 (1)</p> <p>○銀行警備に関する研修 (1)</p> <p>○「犯罪白書」を送ってほしい。(1)</p> <p>○研修中使用したスライド、講義のテープを送ってほしい。(エジプト) (2)</p> <p>○最新捜査機材を送ってほしい。(1)</p> <p>○このセミナーを長くやってほしい。(1)</p> <p>○「警察通信セミナー」をやってほしい。(ネパール)</p> <p>○「交通警察セミナー」にも研修員を送りたい。(パキスタン)</p>
<p>○日本の生活は快適であった。(0)</p> <p>○病気の際、コーディネーター、JICA担当者の処置がよかった。(ネパール)</p>	<p>○到着より開講式の間、他の研修員との接触の機会を作る等、もう少しJICA側の配慮がほしい。(1)</p>	

研 修 面

生 活 面

<エジプト> 近代的かつ多種多様な機器の装備化がなされている日本警察組織に印象を受けた。さらに

① 市民と日本警察当局の連絡協力体制

(例 警視庁訪問中に起きた通り魔人質事件々とニュース放送に流される事件状況)

(注) ただし 市民と警察当局の連絡体制なのか それとも事件現場から送られてくる情報を基にして連絡活動を取り合う当局の対策本部の活動を意味するか不鮮明

② 一つの重要な事件が発生した際の当局の活動。

(例 三菱銀行人質事件のスライドからの印象)

(彼の疑問として) 当局の活動が一つの事件に集中されることによる、同時に起こりうる別の重要事件への対応方法。

<ホンコン> 数々の講義(サンルートでのそのみならず見学先でのそれも含めて)で展開される説明が、うわっ面の表面的なもの。その裏に隠されているであろう重要点についてはあまり触れてはいなかったのではなかろうか。)

さらに 日本警察当局からの参加者(特別研修員 etc)との討論なり、談話などで交されるべき "自由な会話" が、さらに必要である。

<インドネシア>

1) 第一線で活躍する日本研修員と同席できたことは価値のあることだ。

2) 犯罪撲滅には各国との協力が必要。

<ジャマイカ> ある物事の結果はそれがどのような過程を経てできているかを探ることが重要。

1) 夜間でもそれ程警戒することなく外出できる事。犯罪率が低いという事実は、日本警察当局の諸活動がいかに社会の秩序に貢献しているか、に起因する。つまりは当局の機警が、十分確立されているということである。(諸活動に重要な役割をなす機器類の装備をも含めて)

<韓国>

日本Police当局の捜査活動、鑑識方法等は優れたものである。

Patrol System

さらに重要な点として印象深い事は、日本人の法に対する遵守さが大切な要素である。

<マレーシア> 日本Police当局と私企業の結合関係は羨望すべきである。こうした関係を開発途上国において実現 きたら …。

<パキスタン> ① 日本での犯罪検挙率の高さ。

② 裁判所での99%の conviction

自主的に犯行を認める容疑者は8.4%(4.8%?)と非常に高い。つまり自白強要の形ではなく、自ら罪を認めるという傾向が高い。

③ 特に東京等の大都市における交通に関しての日本Police活動は非常に効率性が高い。

<バングラデシュ> 警視庁訪問中に発生した人質事件

事件発生後取られる状況への対応の仕方をかいま見ることができたことが印象的。

近代的かつ高度な機器類の活用の重要性認識。

<フィリピン> 日本警察の人材及び高度な機器類に印象を受けた。

＜フィリピン＜グティエレス＞ 大都市東京でありながら夜の外出が大きな不安なくできるということは日本の警察。特に「お巡りさん」体制の良さにつきる。

勿論犯罪あるいは防犯対策として迅速にとり組むためには、近代的器材設備は重要だが、それにも劣らず重要なのは、ちまたで防犯、治安のため活動している「Mr. Walker」の力甚大。

＜シンガポール＞ ① 交番及び防犯協会といった存在、重要。

② N. P. A と T M P D の親合的活動に印象。

＜スリランカ＞ 自分の言いたかった事はほとんど言い尽くされた。他に加えるに、まず Police に対する一般市民の協力。

（例 容疑者捜査への協力）、交番の存在というもの。

そして、交通警察に関しては、運転者歩行ともにそれぞれ交通道德を守ることに関心した。

＜タイ＞ ① 一般市民の Police に対する協力的態度

② 犯罪捜査（あるいは事件発生後の対策活動）のための近代的機材の広範なる活用は犯罪の低発生率を導いていると言える。

③ 日本の県警察が自治体制としてあり、犯罪に関して独自の活動が生れるという点、タイと異なり、印象的。

## 2. 見 学 etc

＜エジプト＞ 過去において2、3回の海外研修を経験したが、今回際立った成果と感ずること。それは近代的かつ高度な機器設備のみならずそれらを十分に駆使できる人的資源の重要性を認識。これはとりもなおさず、教育水準の高さ。訓練のすばらしさに尽きる。

ただ残念だったことは、それらの機器類を現場においていかに効率的に用いるかということのための事前説明を受けられなかったという点。印象を受けたものの具体的例として

① コンピューターシステム導入による効率化 （NPC）

② Footprint 検出方法 （MPD）

＜ホンコン＞ 見学は講義中に受けた知識をより具体的かつ鮮明にすることができるので重要。

ただし、将来の一案として考えたいのは見学時での数グループ化によるより密直した見学可能化ということ。

個々の見学の印象としては

① 警察大学校では、講義を受けたまでは良かったが見学はお粗末。

② 中野刑務所、INTERPOL通信所、最高裁等は良かった。

③ 指紋鑑識に関してはNPAとMPDの見学の重複があった点意味のないものだった。

NPA見学後、MPDでは、NPAにはない独自の検出方法等を見学することは省くべきではないが…。

④ 四谷警察署では複数のグループ化があったら…。

＜インドネシア＞ 強調点としては ①捜査活動におけるコンピューター活用。②講義の後行なう見学（松下、NEC）は良。③日本警察が現在活用している機材が双方の協力関係のもとに行なわれ、かつ内国生産されているという点。

＜韓国＞ 日本警察当局と私企業との連携的活動＝産業－警察体制は良し。

<マレーシア> ① 講義での説明の後の私企業見学は重要だった。

② ホンコンのホドソン氏の意見③と同じ。

<パキスタン> ① 見学時の複数グループ化 賛成。

② 印象的だった点は中野刑務所。

③ 日本の特別研修員による三菱銀行人質事件に関するスライドは、非常に興味を持って拝見したが、できることなら、実際現場において、いかなる事件でどのような進捗があったか等、説明を受ける方がより鮮明になろう。

<バブアニューギニア> NPA及び私企業の工場見学は、講義に関連されて高く評価されるべきである。重要な情報が得られた。

<フィリピン> (Mr. Mecano)

松下よりNEC工場見学が印象的。

また、最高裁判所見学も印象に残った。

ただし、せめて関西旅行行程の中に県警本部訪問がもり込まれていたら。さらに意義大となった。

< # > (Mr. グティエレス)

最高裁に関しては訪問より、講義での説明の方が重要。

<寺嶋氏> 自動車工場の見学が望ましい。

<シンガポール> 見学は興味深いものであった。(例 NPA, MPD, NEC 松下)ただし、警察大学校は、講義はまだしも見学はお粗末。

<スリランカ> 自動車あるいはオートバイ生産工場見学 望ましい。

<タイ> NPA, 最高裁等, 見学印象的。

### 3. 講義について

<ホンコン> 同時通訳者による説明時間短縮化を計り、Q&A時間に余裕をもたせるべきではないだろうか。

<インドネシア> 毎日の講義開始時間の繰り上げ希望。

<フィリピン> ホンコンのホドソン氏と同意見

<ジャマイカ> 逮捕術、捜査技術に関する説明が不足。またスライドによる三菱銀行人質事件は、一つの講義としてなされる程、重要かつ興味深いものであると思う。

<フィリピン> カントリーレポートに関して。

各国とも同一の問題設定を受けた訳だが、特に犯人の自国への強制送還に関しては各国との方法として大差ないものであるから各自が異なる問題設定を与えられて発表しそれに対し、各国からの意見表出という老実化を計るべきではなかろうか？

<バブアニューギニア> フィリピンの意見に全面的に同感。JICAにも一考願う。

<インドネシア> 実際の講義の2, 3日前に資料を渡されていれば講義中の討議はさらに充実すると思うのだが…。

### 4. 研修旅行

<スリランカ> 関西旅行に関してだが、京都でのレセプションといった形式的催しよりも京都府警訪問の方が実質的であったろう。



<ホンコン> JICAにも検討して頂きたいが、研修員同志の心的交流を早期に計るためにも箱根旅行のよう

な短い旅行（東京都内観光でも良く）をできるだけ早い時期に行ったらどうか。

<例えば 日本到着後、公的スケジュールが始まる前2、3日の余裕のある日>

<フィリピン> 関西旅行に府警訪問を含めるべきだ。

#### 5. 宿泊設備

<全体的意見として>

良好

ただし、各研修員の間に、部屋の大きさの違いが出たのはどうした訳か？

（例 （ホンコン）Hodson氏と、Mecano氏（フィリピン）の部屋の広土の違い）

特に一ヶ月という滞在なのであるから、ゆとりのある部屋を与えられたい。

56年度集団コース1612国際捜査  
セミナー 評価会要約

担当(河野)

日 時  
場 所  
出席者

I G.I.

- 来日前にG.I.を読んだか。読まなかったのはなぜか？
- G.I.へのコメント

II ブリーフィング

- 有益であったかどうか。
  - ・非常に良かった。(∴捜査用材料の贈呈があったため)
- ブリーフィングへのコメント

III オリエンテーション

- 有益であったかどうか。
- オリエンテーションへのコメント

IV 生活状況

- 来日前の準備について
  - ・特にせず
- 宿舎についてのコメント
  - ・よい
- 食事, その他についてのコメント
  - ・問題なし

V 研修一般

- 期間について, 不適の場合その理由。
  - ・適切

○研修プログラム（講義、実習、見学の配分）等について

・適切

#### VI 講 義

○科目、トピックについてのコメント

・特になし

○講義の判りやすさについて

・普通

○講師についてのコメント

・講師の知識分野が限られており、Generalな質問に対応できない面がある。

○講義法、使用教材について

・スライドが好評であった。

○他に希望される科目、トピック

#### VII 見 学

○有益であったかどうか、その理由

・有益であった。

○他に希望される見学先、人気の無かった見学先とその理由

・特になし

#### VIII 実 習

○有益であったかどうか、その理由

・なし

○他に希望される実習、人気の無かった実習とその理由

#### IX カントリーレポート

○来日前に作成したかどうか、作成しなかったのはなぜか。

○カントリーレポートは有益であったかどうか。

○カントリーレポートに対するコメント

#### X 研修監理員

○監理業務に対するコメント

・効率的でよい

◦監理員に対するコメント

親 切

#### XI 日本についての印象

◦滞在中一番困った事はなにか

特になし

◦来日前と来日後の日本の印象について

よりよい印象をもった。

#### XII 総 合 評 価

◦このコースを発展させるための研修員の提言

◦このコースに対する研修員の総合的な意見

#### XIII ファイナルレポート

◦ファイナルレポートの中で特に注目しておく点

特になし

#### XIV 評 価 会

◦評価会に参加しての担当のコメント

#### XV そ の 他

◦このコースについてその他コメントしておく点

日本と海外の警察関係者の顔合せ的な色彩が強く技術研修とは、若干言えない部分がある。



警-2	コース名:	麻薬犯罪取締セミナー				定員																																																																																																
						18名																																																																																																
<p>受入期間: 56. 9. 17~56. 10. 24</p> <p>関係省庁: 警察庁・保安部</p> <p>受入機関:</p> <p>国別応募状況:</p>																																																																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>国名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> <th>国名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インド</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>タイ</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>インドネシア</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>香港</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>大韓民国</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>パプア・ニューギニア</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>マレーシア</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>イラン</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>モルデブ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>サウディ・アラビア</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>パキスタン</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>アラブ首長国連邦</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ブラジル</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>チリ</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ボリヴィア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>モロッコ</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コロンビア</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>バングラデシュ (割当外)</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ペルー</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジャマイカ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>パナマ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フィリピン</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シンガポール</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スリランカ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数	インド	1	1	タイ	2	1	インドネシア	2	1	香港	1	1	大韓民国	1	1	パプア・ニューギニア	0	0	マレーシア	2	2	イラン	0	0	モルデブ	1	1	サウディ・アラビア	0	0	パキスタン	0	0	アラブ首長国連邦	1	1	ブラジル	4	1	チリ	1	1	ボリヴィア	1	1	モロッコ	1	0	コロンビア	2	1	バングラデシュ (割当外)	1	1	ペルー	0	0				ジャマイカ	0	0				パナマ	1	1				フィリピン	2	1				シンガポール	2	1				スリランカ	1	1			
国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数																																																																																																	
インド	1	1	タイ	2	1																																																																																																	
インドネシア	2	1	香港	1	1																																																																																																	
大韓民国	1	1	パプア・ニューギニア	0	0																																																																																																	
マレーシア	2	2	イラン	0	0																																																																																																	
モルデブ	1	1	サウディ・アラビア	0	0																																																																																																	
パキスタン	0	0	アラブ首長国連邦	1	1																																																																																																	
ブラジル	4	1	チリ	1	1																																																																																																	
ボリヴィア	1	1	モロッコ	1	0																																																																																																	
コロンビア	2	1	バングラデシュ (割当外)	1	1																																																																																																	
ペルー	0	0																																																																																																				
ジャマイカ	0	0																																																																																																				
パナマ	1	1																																																																																																				
フィリピン	2	1																																																																																																				
シンガポール	2	1																																																																																																				
スリランカ	1	1																																																																																																				
<p>受入担当: 上條三津代</p> <p>コーディネーター: 大林 一江・植田小百合</p>																																																																																																						



## 第20回(1981年度)

## 麻薬犯罪取締セミナー日程表

月 日	曜日	午 前 ( 9:30~12:00 )	午 後 ( 13:30~16:00 )
9. 28	月	日本の警察の概況 ( 保安課長 )	日本の麻薬犯罪取締機構法令 ( 保安課理事官 )
29	火	日本における麻薬犯罪の取締り ( 保安課課長補佐 )	
30	水	日本の麻薬行政について ( 厚生省麻薬課長 )	捜査技術の研究 ( 警視庁保安第二課長 )
10. 1	木	日本における刑事手続の概要 ( 調査統計官 )	捜査技術の研究 ( 神奈川県保安課長 )
2	金	参加者発表	参加者発表
3	土		
4	日		
5	月	薬物の鑑定と見学 ( 科学研法科学第一部長 )	見学 警視庁
6	火	参加者発表	参加者発表
7	水	参加者発表	参加者発表
8	木	研修旅行 ( 栃木県下 )	
9	金	同 上	
10	土		
11	日		
12	月	参加者発表	参加者発表
13	火	研修旅行 ( 神奈川県下 )	
14	水	参加者発表	東京税関見学
15	木	参加者発表	参加者発表
16	金		
17	土		
18	日		
19	月	研修旅行 ( 兵庫, 京都 )	
20	火	同 上	
21	水	同 上	
22	木	閉 講 式	



## 56年度集団コースA611麻薬犯罪取締

### セミナー 評価会要約

担当(上條)

日 時 昭和56年10月16日 (総合討論会)

場 所 T I C

出席者 研修員 18名 研修監理員 2名  
警察庁 1名 サイマル通訳 1名  
(座長)

#### I G.I.

○来日前にG.I.を読んだか。読まなかったのはなぜか?

読んでいる。

○G.I.へのコメント

特がない

#### II ブリーフィング

○有益であったかどうか。

有益であった。

○ブリーフィングへのコメント

#### III オリエンテーション

○有益であったかどうか。

有益且つ興味があった。

○オリエンテーションへのコメント

#### IV 生活状況

○来日前の準備について

○宿舎についてのコメント

ダイヤモンドホテル一部屋は狭いが、清潔で特に問題はない。

○食事、その他についてのコメント

ホテルは高いので外で食事することが多い。

#### V 研修一般

○期間について、不適の場合その理由。

18人の研修員中、1、2人が長すぎるとも意見もあったが大半は、特に異論なし。

○研修プログラム（講義、実習、見学の配分）等について

・セミナーではあるが討論に盛りあがり方が乏しかった。

・その理由 1. 研修員間の英語力の格差

2. 本セミナーのテーマが特に設定されていない。一座長の能力にもよるが

3. 研修員の態度として、一、二の人が休戦気分で来日したように見えるのが居た。

## VI 講 義

○科目、トピックについてのコメント

○講義の判りやすさについて

○講師についてのコメント

○講義法、使用教材について

○他に希望される科目、トピック

## VII 見 学

○有益であったかどうか、その理由

・科学警察研究所、実験動物中央研究所の見学は、新知識、新技術は、啓発されるところ多く有益であった。

○他の希望される見学先、人気の無かった見学先とその理由

## VIII 実 習

○有益であったかどうか、その理由

・な し

○他に希望される実習、人気の無かった実習とその理由

## IX カントリーレポート

○来日前に作成したかどうか、作成しなかったのはなぜか。

・来日前に全員作成

○カントリーレポートは有益であったかどうか。

- カントリーレポートに対するコメント

## X 研修監理員

- 監理業務に対するコメント

今回は JICA 研修監理員は主として、議事録作成に従事してもらった。通常の庶務関係業務は、警察庁側に委ねることが多かった。

- 監理員に対するコメント

警察庁側からのスタッフが多く待機しているので、業務の分担に多少の混乱があったようだ。

## XI 日本についての印象

- 滞在中一番困った事はなにか。

特にない。

- 来日前と来日後の日本の印象について

日本人勤勉性、会社（又は僱主）に対する忠誠心、衛生レベルに対する称讃の声多し。

## XII 総合評価

- このコースを発展させるための研修員の提言

1. 研修員の質の均一化。 Screening
2. 研修員の発言量の均等化。 Chairman の統率能力、研修員の英語格差によりむづかしいが

- このコースに対する研修員の総合的な意見

Country report の発表及びそれに対する質疑応答と共に General discussion の時間を設け、テーマを設定して、総合討論を行ったらどうかとの提言あり。

## XIII ファイナルレポート

- ファイナルレポートの中で特に注目しておく点。

日本語会話の本は、来日前に配布されていたらもっと有益だったと思う。

## XIV 評価会

- 評価会に参加しての担当のコメント

本稿は、総合討論会（セミナーそのもの）と、final report、研修監理員報告書をもとにして、作成した。

## XV その他

- このコースについてその他コメントしておく点

警-特1	コース名： (特設)警察通信セミナー (準高級)	定員 10名																																																																																																
<p>受入期間： 56. 11. 19~56. 12. 10</p> <p>関係省庁： 警察庁・通信局</p> <p>受入機関：</p> <p>国別応募状況：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>国名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> <th>国名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィジー</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>バプア・ニューギニア</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ビルマ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>大韓民国</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>カタール</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>バングラデシュ</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ネパール</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シンガポール</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インド</td> <td>1</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フィリピン</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>マレーシア</td> <td>1</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>香港</td> <td>1</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>パキスタン</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スリランカ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>タイ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インドネシア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ナウル</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数	フィジー	1	0	バプア・ニューギニア	0	0	ビルマ	1	1	大韓民国	0	0	カタール	1	1				バングラデシュ	2	1				ネパール	1	1				シンガポール	1	1				インド	1	0				フィリピン	2	1				マレーシア	1	0				香港	1	0				パキスタン	2	1				スリランカ	1	1				タイ	1	1				インドネシア	1	1				ナウル	0	0			
国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数																																																																																													
フィジー	1	0	バプア・ニューギニア	0	0																																																																																													
ビルマ	1	1	大韓民国	0	0																																																																																													
カタール	1	1																																																																																																
バングラデシュ	2	1																																																																																																
ネパール	1	1																																																																																																
シンガポール	1	1																																																																																																
インド	1	0																																																																																																
フィリピン	2	1																																																																																																
マレーシア	1	0																																																																																																
香港	1	0																																																																																																
パキスタン	2	1																																																																																																
スリランカ	1	1																																																																																																
タイ	1	1																																																																																																
インドネシア	1	1																																																																																																
ナウル	0	0																																																																																																
<p>受入担当： 立石 俊一</p> <p>コーディネーター： 芳根 和子</p>																																																																																																		



#### 担当所見（プログラム・研修員寸評・受入先等の対応、生活面等）

プログラム：初めてのセミナーということもあり，JICA側も全体日程等の作成に協力したが，我々の意見を取り入れまずまずの出来と思われる。

内容的にはアウトライン紹介に留まっているが，準高で期間が短いため止むを得ないであろう。

研修員寸評：準高コースに相応しい人物が多かった。特にビルマ，インドネシア等は農業関係c/pの準高クラスと違い，在日大使館が出向へをする程であった。

受入先等の対応：事務担当は真面目で，JICAの受入先の関係について理解が深かったが上のクラスではJICAは金を出して貰うだけで良いと思っている節があった。

講師が英語で行うところまではまだ遠い状態である。

その他：初めてのセミナーであり，準高待遇かつ期間の短かさが相まって多数の応募者があり，選考に苦慮した。但し選考は一切JICAにまかせてくれたが，警察庁は全員受入れとの希望が強かった。

#### 改善・検討すべき課題

1. 次回セミナーを開催する場合，4～5年後であれば同一内容でも可。

但し3年に1度あるいは2年に1度というのであれば，対象とする研修員を技術者が行政官かに明確化する必要がある。

2. 準高クラスで通信関係の警察官は各国とも少なく，同じ顔ぶれになりかねない。
3. 担当者が警察内であまりに発言力がなさすぎ，気の毒であった。評価会への出席も認められなかった。
4. 評価会は，セミナーの運営に関する討議よりも，各国の通信事情についての時間が多すぎたようだ。

昭和56年度 警察通信セミナー日程

月日	曜	午 前 (10:00~12:30)	午 後 (14:00~17:00)
11.24	火	開講式 ○オリエンテーション (通信局) (理事官)	15:30 日本の警察と通信組織 16:30 見学 指紋自動読取システム (警察庁) (通信総務課長)
25	水	有線通信 (有線通信課長)	見学 警視庁
26	木	無線通信 (無線通信課長)	見学 ICPO東京通信所及び電報通信所 衛星通信施設, 東京タワー 電子交換機室 (関東)
27	金	交通と通信 (通信調査官)	14:30 教養と研究 見学 警察通信学校 (研究部) (通信学校長) ④ 急用通信機器展示
28	土	—	—
29	日	—	—
30	月	警察とコンピュータ (情報管理課長)	見学 ICPO東京送信所 情報処理センター
12.1	火	通信の運用 (通用運用官)	見学 NEC横浜工場
2	水	国際捜査協力 11:00 国際警察通信網 (国際刑事課長) 11:30 (電波技術調査官)	見学 松下通信工業網島工場
3	木	見学 富士通小山工場	
4	金	研修旅行 見学 三菱電機尼ヶ崎工場 (大阪泊)	
5	土	研修旅行 見学 近畿管区局生駒山無線中継所 (京都泊)	
6	日	研修旅行 (京都泊)	
7	月	—	—
8	火	総合検討会 (通信局)	閉講式 (国際協力事業団) (通信局)

## ア　ン　ケ　ー　ト　要　約

質　問	バングラディシュ	ビ　ル　マ	イ　ン　ド　ネ　シ　ア	ネ　パ　ー　ル	パ　キ　ス　タ　ン
あなたの国の主な警察通信機器について述べて下さい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• UHF, VHF, HF, 不十分である。</li> <li>• 電話は、TTDのラインを使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• HF, SSB</li> <li>• VHF, FM</li> <li>• テレプリンタ</li> <li>(十分ではない)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• HF・SSB(J.R.C)</li> <li>• VHF, 基地, 車載(モノローラ)</li> <li>• 各種交換機, (ITT, エリックソン, NEC)</li> <li>• コンピューター(I. B. M)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ネパールでは中国製, 中国製, アメリカ製</li> <li>• イギリス製などいろいろ通信機器を使用していますが十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• VHF, 基地車載, コーキー</li> <li>• 占有テレプリンター</li> <li>• 電話はN. T. Tを使用。</li> </ul>
新しい警察通信装置を導入するとしたら特に何をやりたいか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 帰国後, 報告して検討したい。</li> </ul>	現在のところなし	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 通信指令センター(ジャルタ首都警察)</li> <li>• HF/SSBの海上警察の近代化</li> <li>• VHF/FMの地域の基地局の完備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 勤務中の警察官が警署と通信できる</li> <li>• コーキー</li> <li>• オーキー</li> <li>• 集中データ処理システム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 緊急通報電話システム</li> <li>• コーキー</li> <li>• 集中データ処理システム</li> </ul>
特に必要とする技術的援助は何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 無線関係については, 技術的援助を求めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• HF, SSB</li> <li>• VHF, FM</li> <li>• テレプリンタ</li> </ul> についての技術的援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 通信職員の訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• トータルシステムの企画及び要員の訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 上記のためのコンピュータ技術</li> </ul>
このセミナーは毎年行う必要がありますか。	YES	YES	可能であれば	YES	YES
日本の一般的印象について	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 素晴らしい。</li> <li>• 食事は良く, 気候は寒かったが, 耐えられた。</li> <li>• 新幹線は大変便利だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 何も不都合はなかった。</li> <li>• 都市は美しく, 気候は若干寒かった。</li> <li>• 新幹線は非常に速かった。</li> <li>• 非常に楽しかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 何も不都合なことはなかった。</li> <li>• 東京の交通の良さ, 食事は新幹線等は強い印象であった。気候は寒い。</li> <li>• 公衆への一般的情報英語であれば</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 言葉の問題を除いてあらゆる面で快適でした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 食事: パキスタンとはほぼ同じだし, パラエティが豊富</li> <li>• 気候: 北部パキスタンとは同じ。</li> </ul>
今後のセミナーに何を要望しますか。	講座 } 詳細について触れるだけの時間が必要 見学 } その他: このようなセミナーは非常に有効である。	講座: 期間を長く 見学: 満足した その他: 講義のサマリーだけでなく, 全体の英文資料が欲しい。	講座 警察組織に限らず行政組織も生活様式等も, 見学 非常に良かった。 その他, 夏に開かれたらなお良い。	講座 - 期間を長く 見学 - 同程度で時間を長く	講座 討議の時間を増す。 資料を早めにもらう。 時間を増す。 現業部門の見学も入る。



## ア　ン　ケ　ー　ト　要　約

質　問	フ　ィ　リ　ビ　ン	カ　タ　ー　ル	シ　ン　ガ　ポ　ー　ル	ス　リ　ラ　ン　カ	タ　イ
あなたの国の主な警察通信機器について述べて下さい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分なものはなし</li> <li>・ウオーキー (G.E)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロリンク (11000KHz をカバー)</li> <li>・VHF, UHF, VH. の移動無線及び携帯無線 (移動警電を含めて)</li> <li>・レーザーファインミリ, 対策, etc.</li> </ul>	緊急時には十分ではないが, ウオーキー (1500台) 車載 (500台) 他に固定局を持っている。	十分とは思わない。 HF/SSB, 固定局 VHF 固定, 車載, ウオーキー	VHF/HF, HF/SSB, (USA, イギリス, 日本) UHF リンク (NEC) テレプリンター (シーメンス, ローレンツ) データ伝送 (英国), 緊急呼出 (松下)
新しい警察通信装置を導入するとしたら特に何を入れるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファクシミリ</li> <li>・写真伝送</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通監視カメラ, 交通管制。</li> <li>・カーロケーター。</li> <li>・指紋。</li> </ul>	新しい設備を入れたいが現有のものも良く稼働している。	フントパトロールの警察官と警察署とのウオーキー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方警察本部とのホントライ</li> <li>・交換機 (電子交換機)</li> <li>・新しい移動無線装置</li> </ul>
特に必要とする技術的援助は何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術的援助はいらない。(十分な技術者がいる)</li> </ul>	上記の技術。	通信指令センターのようなコンピュータ技術。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術者の指導。</li> <li>・新しいシステム建設のための企画。</li> </ul>	国家規模の無線通信網の建設のための技術者が欲しい。
このセミナーを毎年行う必要がありますか。	2年に1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい技術が開発されればいつでも開いてもらいたい。</li> </ul>	3年に1回	YES	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良好な友好関係をもって情報交換をすれば特に必要な</li> </ul>
日本の一般的印象について。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事には困難はなかった。</li> <li>・気候は問題なし。</li> <li>・新幹線はすばらしかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事を除いて他は何も問題なし。</li> <li>・地下鉄は複雑でわかりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事は問題なし。</li> <li>・気候は寒いけれど問題なし。</li> <li>・新幹線はすばらしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事: 良い, バランスがとれている。</li> <li>・気候: 良い。</li> <li>・新幹線は快適である。</li> <li>・特に問題はなし。日本, 日本人を愛護した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事は良いが高い。</li> <li>・気候は寒い。</li> <li>・新幹線はすばらしい。</li> <li>・不都合なことはない。</li> </ul>
今後のセミナーに何を要望しますか。	<p>講座: この形式で良い。</p> <p>見学: 見学に行く前に事前説明が欲しい。</p> <p>その他: 現業部門の見学</p>	<p>講座: 良い, ただ, 技術的問題の解決についても欲しい。</p> <p>見学: 非常に良い。</p>	<p>講座: 同じで良い。</p> <p>見学: 同程度で良いが時間長く, 地方の警察本部を含めて。</p>	<p>その他: N.P.A. のスタッフともしっかり合う機会が欲しかった。</p>	<p>講座: 事前に資料を欲しかった。</p> <p>見学: 警察以外の政府組織の見学。</p> <p>その他: 夏期に開いて欲しい。</p>

人-1	コース名： 国 家 行 政	定員 14名																																																																																																
<p>受入期間： 56. 9. 3~56. 11. 28</p> <p>関係省庁： 人事院</p> <p>受入機関： 人事院公務員研修所, (財団法人) 日本人事行政研究所</p> <p>国別応募状況：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>国 名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> <th>国 名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビ ル マ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>パ ナ マ</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>イ ン ド ネ シ ア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>パ ラ グ ァ イ</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>マ レ イ シ ア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>パプア・ニューギニア</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ネ パ ー ル</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フ ィ リ ピ ン</td> <td>5</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>タ イ</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ ジ プ ト</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス ー ダ ン</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シ リ ア</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ト ル コ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガ ー ナ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ケ ニ ア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ナ イ ジ ェ リ ア</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ザ ン ビ ア</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボ リ ヴ ィ ア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数	ビ ル マ	0	0	パ ナ マ	1	1	イ ン ド ネ シ ア	1	1	パ ラ グ ァ イ	0	0	マ レ イ シ ア	1	1	パプア・ニューギニア	0	0	ネ パ ー ル	1	1				フ ィ リ ピ ン	5	2				タ イ	2	2				エ ジ プ ト	2	1				ス ー ダ ン	2	2				シ リ ア	0	0				ト ル コ	1	1				ガ ー ナ	0	0				ケ ニ ア	1	1				ナ イ ジ ェ リ ア	0	0				ザ ン ビ ア	0	0				ボ リ ヴ ィ ア	1	1			
国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数																																																																																													
ビ ル マ	0	0	パ ナ マ	1	1																																																																																													
イ ン ド ネ シ ア	1	1	パ ラ グ ァ イ	0	0																																																																																													
マ レ イ シ ア	1	1	パプア・ニューギニア	0	0																																																																																													
ネ パ ー ル	1	1																																																																																																
フ ィ リ ピ ン	5	2																																																																																																
タ イ	2	2																																																																																																
エ ジ プ ト	2	1																																																																																																
ス ー ダ ン	2	2																																																																																																
シ リ ア	0	0																																																																																																
ト ル コ	1	1																																																																																																
ガ ー ナ	0	0																																																																																																
ケ ニ ア	1	1																																																																																																
ナ イ ジ ェ リ ア	0	0																																																																																																
ザ ン ビ ア	0	0																																																																																																
ボ リ ヴ ィ ア	1	1																																																																																																
<p>受 入 担 当： 河野愛一郎</p> <p>コーディネーター： 佐藤 峯子・佐藤葉子</p>																																																																																																		



## 業務実施報告書

### 1 研修実施概要

#### (1) 研修科目

国家行政コース

#### (2) 研修機関

財団法人 日本人事行政研究所

#### (3) 研修実施期間

昭和56年9月16日～同年11月26日

#### (4) 主たる研修場所

国際協力事業団東京インターナショナルセンター

#### (5) 宿泊施設

ホテルサンルート東京

#### (6) 研修参加者

(別添1)

#### (7) カリキュラム

(別添2)

### 2 研修の成果及び問題点等について

#### (1) 成果

本年度のコースは、人事院及び貸事業団の指導のもとに、

各省庁人事管理官及び国際協力部門担当官並びに地方公共団体、政府関係機関及び企業のトップクラスの協力を得て当初計画通り実施することができた。行政の分野における国際協力という観点に立つとき、かなりの成果があったと考えられる。

参加者の学識、経験等のレベルが相当高いうえ、中央政府の上級幹部行政官であることから、参加意欲は旺盛であり、態度もきわめて良好であった。

## (2) 研修監理員の役割

「国家行政」の性格上、参加者の相互啓発の場を提供することに意を用いたが、カリキュラムは広範多岐にわたっており、研修方法も、レクチャーフォーラム、セミナー、グループ別比較研究（比較行政）、各省庁行政施策形成部門担当官とのディスカッション等と多様性を持たせているため、実施にあたり研修監理員を媒体とする講師、指導担当官と参加者との間の意思疎通の良否が本コースの成果に直接影響することとなる。

また、研修参加者の年齢が、比較的高いことから3か月にわたる研修実施期間中の健康管理体制は万全を期する必要がある。

以上の通り本コースの特殊性に鑑み、研修監理員の複数配置について特段の配慮をお願いしてきたところ、本年度においては貴事業団関係者の御努力により措置していただいたが、今後とも引続き有能な研修監理員の配置について格別の御配慮をお願いしたい。

(3) 参加者の処遇等について

本コース参加者は大半が各国中央政府の局長級及び部長級であり将来トップクラスのポストへの昇進が約束されている上級行政官であることから各国のリーダーとしてのプライドを有し、階級意識は相当に強いように見受けられる。この点については、本コースの運営管理にあたって当研究所としては特に意を用いてきているが、貴事業団におかれても研修施設、宿泊施設、滞在費等を含めた参加者の処遇等の改善について格別の御配慮をいただければ幸いである。

(4) 同時通訳について

本コースのテーマによっては、我国を代表する学界、産業界の権威者又は各省庁トップレベルの行政官を講師として委嘱したが、講師の中には基調講義を英語によって行うことが不可能となることもあるので、当該講師については、

専門領域の同時通訳を配置されることを希望する。

(5) コース協力機関（者）に対する表彰について

民間企業その他の協力機関（者）の本コースへの永年にわたる貢献を、公に評価することは、次年度以降の協力を得るためにも最も有効な方法であると思料されるので貴事業団におかれても表彰の拡大方について御検討いただくよう希望する。

(6) その他

本研修の参加者は、比較的年齢が高く、また、学識、経験も豊富である。したがって、研修の実を上げるためには、参加者よりも年齢が高くかつ学識、経験に富んだ人を得て、常時研修員に接触しこれをリードし、研修全般の進行を管理することが必要であると認められた。そこで、今回は、特に適任者を部外に委嘱し、上記趣旨の職務をコース・リーダーの名称の下に行わせたところ予期以上の成果を得ることができた。今後とも本研修の目的に鑑み、上記趣旨のコース・リーダーの活用を企ていきたいので併せて御報告する。

## カリキュラム

### 研修コースの目的

この研修コースは、参加国の幹部行政官に専門的修練の機会を提供し、行政の分野における国際協力の促進を主たる目的とする。

参加者に対しては、この研修の参加を通じて次の諸目標の達成を期待する。

- (1) 日本の行政の沿革及び現状の理解
- (2) 参加各国の行政及び行政官の役割に関する比較研究
- (3) 日本の近代化の過程とその特徴の理解

○開講式 懇談会(1) 注：( )の中の数字は単位数を示す。以下同じ。

### ○オリエンテーション (11)

#### 説明・講義(10)

手続関係

日常生活一般

人事院によるオリエンテーション

日本一般事情（フィルム上映を含む）

日本経済



日本社会

日本文化

実証見学(1)

都内見学

○ Part I 参加国の各中央政府についての比較研究(2)

目標

- (1) 行政における比較研究の方法について一般的知識を得る。
- (2) 比較研究を通じて参加国の各中央政府の機能及び役割を理解する。

講義(7)

- 1 日本政治史(2)
- 2 統治制度の基本原則(2)
- 3 国家行政組織(2)
- 4 行政における比較研究(1)

演習(報告と比較研究)(5)

主題：中央政府の機能と役割

課外活動

歓迎懇談会等

## ○ Part II 近代化をめぐる諸問題(9)

### 目標

- (1) 日本における近代化の過程と意義及び問題点を研究し、あわせて近代化がもたらした諸問題を検討する。
- (2) 参加国における近代化の過程、意義及び問題点を研究する。

### 講義(5)

- 1 日本における近代化の過程と意義－Ⅰ (2)
- 2 日本における近代化の過程と意義－Ⅱ (2)
- 3 日本の社会の特色と将来展望(1)

### 演習(全体討議)(2)

主題：参加国における近代化の過程と意義

### 調査見学(4)

○木更津工業高等専門学校

○新日本製鉄株式会社(君津製鉄所)

## ○ Part III 行政及び公務員制度(11)

### 目標

- (1) 行政の概念及び行政における政策の決定と実施をめぐる諸問題について研究する。
- (2) 公共部門における管理及び公務員制度についての基

本的知識及び方策を理解する。

## Section 1 行政と管理(2)

### 目標

行政の概念と行政官の役割及び行政における政策決定過程に関する諸問題を理解する。

### 講義(2)

1 行政及び調整の概念と行政官の役割(1)

2 政策決定過程(1)

## Section 2 中央政府と地方政府、政府と市民等の諸関係(5)

### 目標

中央政府の総合調整機能、中央政府と地方政府との諸関係及び行政に対する住民参加の問題を理解する。

### 講義(2)

1 中央政府における総合調整機能及び中央政府と地方政府の関係(分権化を中心として)(1)

2 日本における地方自治の現状(1)

### 演習(全体討議)(1)

主題：中央政府と地方政府との関係

### 調査見学(2)

○茨城県新治村役場、柏市役所

### Section 3 日本の公務員制度と人事管理(4)

#### 目標

日本の公務員制度及び人事管理の動向を理解し、あわせて近代公務員制度確立の方策を研究する。

#### 講義(2)

1 日本の公務員制度(1)

2 近代人事管理(1)

#### 調査見学(2)

○人事院公務員研修所

### ○ Part IV 公共政策に関する諸原則、計画及び諸技法(2)

#### 目標

経済政策、農業政策及び社会開発政策等の公共政策の諸問題を日本の実状の研究を通じて理解する。

### Section 1 経済政策(6)

#### 目標

- (1) 経済政策の原理を日本経済の現状に即して理解する。
- (2) 日本経済の発展過程における諸問題を研究する。
- (3) 発展途上国における経済の成長と発展をめぐる諸問題を研究する。

#### 講義(6)

- 1 日本経済論(1)
- 2 財政政策(1)
- 3 日本における租税制度(1)
- 4 日本における経済計画(1)
- 5 発展途上国の経済発展(2)

## Section 2 農業政策(5)

### 目標

- (1) 日本における農業政策の変遷及び農業技術の改善と発展について研究する。
- (2) 参加国における農業問題について研究する。

### 講義(1)

- 1 農業技術の改善と普及(1)

### 演習（全体討議）(2)

主題：農業問題について

## Section 3 社会開発政策(1)

### 目標

日本の雇用、人口、福祉及び産業訓練等の社会経済開発政策について日本の現状を研究し、参加国におけるこれらの問題の比較研究を行う。

講義(6)

- 1 人口問題(1)
- 2 日本における雇用対策の現状(1)
- 3 日本における産業教育訓練(1)
- 4 都市化の現状と問題点(1)
- 5 日本における地域開発の現状(1)
- 6 司法治安行政(1)

演習(報告と比較研究)(5)

主題：社会開発について

○ Part V 配属省庁における実地研究(13)

目標

各省行政の実態を理解するため、配属された各省庁において、政策及び管理の諸問題について実地に研究する。

オリエンテーション(1)

配属・実地研究(8)

参加者は人事院と協議して適切なテーマを決定し、関係省庁に配属される。

各参加者は配属された省庁において、テーマに基づいて、実地に調査研究を行う。

論文作成(4)

各参加者は実地研究の結果をA4版用紙20枚以内に  
まとめた論文を作成し、研修担当官に提出する。

○PartⅥ 調査見学(20)

目標

日本の産業、公共施設、文化財等を見学することによ  
り日本の理解を深める。

調査見学

(1) 半日若しくは1日の調査見学(4)

(2) 中間調査見学旅行(4)

○茨城地区、千葉地区

(3) 期末調査見学旅行(8)

○京阪地区、沖縄地区

○自主研究(5)

○研修評価、閉講式等(2)

○到着、帰国準備等(4)

単 位 数 一 覧 表

	※ 講義	演習	調 査 見 学	実 地 研 究	そ の 他	計
オリエンテーション	10		1			11
P-I 中 央 政 府	7	5				12
P-II 近 代 化	5	2	2			9
P-III 行政と公務員制度						
S-1 行政と管理	2					2
S-2 諸 関 係	2	1	2			5
S-3 公務員制度	2		2			4
小 計	6	1	4			11
P-IV 公 共 政 策						
S-1 経 済 政 策	6					6
S-2 農 業 政 策	1	2				3
S-3 社会開発政策	6	5				11
小 計	13	7				20
P-V 各 省 配 属				12	1	13
P-VI 調 査 見 学			16			16
諸 行 事						
開 講					1	1
個 別 研 究					5	5
閉 講 式 等					2	2
到着、帰国準備等					4	4
小 計					12	12
総 計	41	15	23	12	13	104

※講義はレクチャーフォーラム



第14回国家行政研修コース日程表

9月

日	曜	午前(10:00~12:30)	午後(14:00~16:30)	備 考
1	火			
2	水			
3	木	到着受入れ		
4	金			
5	土			
6	日			
7	月			
8	火			
9	水	オリエンテーション(事業団)		
10	木			
11	金			
12	土			
13	日			
14	月			
15	火			
16	水	開 講 式	オリエンテーション(人事院)	
17	木	日本政治史	同 左	
18	金	統治制度の基本原理	同 左	
19	土			
20	日			
21	月	日本の国家行政組織	同 左	
22	火	行政の比較研究	参加国の中央政府についての比較研究 (5-1)	
23	水			
24	木	日本の近代化の過程と意義	同 左	
25	金			
26	土			
27	日			
28	月	行政決定過程	財 政 政 策	
29	火	参加国の中央政府についての比較研究 (5-2)	同 左(5-3)	
30	水	調 査 見 学 国会	人事院表敬	人事院主催レセプション (ホテル ニュー ジャパン)

10月

日	曜	午 前 (10:00~12:30)	午 後 (14:00~16:30)	備 考
1	木	参加国の中央政府についての比較研究 (5-4)	同 左 (5-5)	
2	金	近代人事管理(日本鋼管)	日本の産業教育訓練	
3	土			
4	⑩			
5	月	行政及び調整の概念と行政官の役割	同 左	
6	火	調査見学<東京-水戸>	茨城総合高等職業訓練所 (雇用促進事業団)	水 戸 泊
7	水	新治村役場 茨城県新治郡新治村	モデル農家又は小学校	土 浦 泊
8	木	筑波学園	同 左	土 浦 泊
9	金	松戸市役所	同 左<松戸-東京>	
10	土			
11	⑪			
12	月	調査見学 人事院公務員研修所	調査見学 74回行政研修生との ディスカッション	
13	火	参加国における近代化の過程と意義	同 左	
14	水	日本経済論	日本における経済計画	
15	木	中央政府と地方政府との関係 (分権化を中心として)		
16	金	日本における地域開発の現状	沖縄県における地域開発の現状とその課題	
17	土			
18	⑫			
19	月	調査見学 <東京-京都>	京都市内見学(京都文化財)	京 都 泊
20	火	<京都-大阪> 民族学博物館見学及び講義		大 阪 泊
21	水	大阪造幣局	<大阪-沖縄>近畿事務局表敬 (人事院沖縄事務所表敬)	沖 縄 泊
22	木	沖縄総合事務局訪問	沖縄総合事務局関係事業視察	沖 縄 泊
23	金	沖縄中部・北部見学	北部ダム・海洋博公園	沖 縄 泊
24	土	フリーディスカッション 沖縄総合事務局計画部	<沖縄-羽田>	
25	⑬			
26	月	社会開発についての比較研究 (5-1)	人 口 問 題	
27	火	社会開発についての比較研究 (5-2)	同 左 (5-3)	
28	水	社会開発についての比較研究 (5-4)	同 左 (5-5)	日本政府主催レセプション
29	木	予 備 日	日本社会の特色・将来・展望	
30	金	調査見学<東京-木更津> 木更津高専	同 左	木 更 津 泊
31	土	新日鉄君津工場見学	<木更津-東京>	

11月

日	曜	午 前 (10:00~12:30)	午 後 (14:00~16:30)	備 考
1	㊦			
2	月	農業技術の普及と改善	調査見学 キャノン又はニコン	
3	㊧			
4	水	調査見学 神奈川県庁表敬	横浜市役所表敬	横 浜 泊
5	木	全農農業技術センター	モデル農家見学	
6	金	農 業 問 題	同 左	
7	土			
8	㊦			
9	月	各省庁配属	同 左 担当者打合せ	
10	火	配 属	同 左	
11	水	"	"	
12	木	"	"	
13	金	"	"	
14	土			
15	㊦			
16	月	個別研究レポート作成	同 左	
17	火	"	"	
18	水	"	"	
19	木	発展途上国の経済発展	"	
20	金	司 法 治 安 行 政	予 備 日	
21	土			
22	㊦			
23	㊧			
24	火	個 別 研 究	同 左	
25	水	"	"	
26	木	検 討 会	閉 講 式	
27	金	帰 国 準 備		
28	土	帰 国	同 左	
29	㊦			
30	月			

56年度集団コース/6 8 国家行政

評価会要約

担当(河野)

日 時

場 所

出席者

I G.I.

- 来日前にG.I.を読んだか。読まなかったのはなぜ?
  - ・全員読んだ
- G.I.へのコメント
  - ・特になし

II ブリーフィング

- 有益であったかどうか。
  - ・何とも言えない。
- ブリーフィングへのコメント
  - ・特になし。

III オリエンテーション

- 有益であったかどうか。
- オリエンテーションへのコメント

IV 生活状況

- 来日前の準備について
  - ・特にせず。
- 宿舎についてのコメント
  - ・設備はよいが、サービス不行届き(サンルート東京)
- 食事, その他についてのコメント
  - ・一般に高い

V 研修一般

- 期間について, 不適の場合その理由
  - ・適切

○研修プログラム（講義、実習、見学の配分）等について

・適 切

#### VI 講 義

○科目、トピックについてのコメント

・科目が総花的なので、もう少し、しぼってほしい。

○講義の判りやすさについて

・問題なし。

○講師についてのコメント

・大学教授クラスなので問題なし。

○講義法、使用教材について

・視聴覚教材を増やしてほしい。

○他に希望される科目、トピック

・特になし

#### VII 見 学

○有益であったかどうか、その理由

・沖縄地方の開発状況は、参考になった。

○他に希望される見学先、人気の無かった見学先とその理由

・特になし。

#### VIII 実 習

○有益であったかどうか、その理由

・な し

○他に希望される実習、人気の無かった実習とその理由

#### IX カントリーレポート

○来日前に作成したかどうか、作成しなかったのはなぜか。

・ほぼ全員作成した。

○カントリーレポートは有益であったかどうか。

・ Y e s

○カントリーレポートに対するコメント

・コピー 20 部持参はきつい。

#### X 研修監理員

○監理業務に対すること

・適 切

◦監理員に対するコメント

- ・親切

#### XI 日本についての印象

◦滞在中一番困った事はなにか

- ・言葉の問題

◦来日前と来日後の日本の印象について

- ・よりよい印象をもった。

#### XII 総合評価

◦このコースを発展させるための研修員の提言

- ・個別研修（各省庁配属研修）をふやしてほしい。

◦このコースに対する研修員の総合的な意見

#### XIII ファイナレポート

◦ファイナレポートの中で特に注目しておく点

- ・特になし

#### XIV 評価会

◦評価会に参加しての担当のコメント

#### XV その他

◦このコースについてその他コメントしておく点

- ・かなり地位の高い行政官が参加するため、期間を短縮し、準高級セミナーとしてはどうか。



J-特1	コース名： (特設) 青年海外協力隊紹介セミナー	定員 5名																																				
<p>受入期間： 56. 11. 2～56. 11. 18</p> <p>関係省庁： な し</p> <p>受入機関： 青年海外協力隊・(社団法人) 協力隊を育てる会</p> <p>国別応募状況：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>国名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> <th>国名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガナ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ザンビア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ネパール</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ペルー</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>チュニジア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数	ガナ	1	1				ザンビア	1	1				ネパール	1	1				ペルー	1	1				チュニジア	1	1			
国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数																																	
ガナ	1	1																																				
ザンビア	1	1																																				
ネパール	1	1																																				
ペルー	1	1																																				
チュニジア	1	1																																				
<p>受入担当： 斉藤 宏</p> <p>コーディネーター： 岡田 享子</p>																																						





## 昭和56年度 青年海外協力隊紹介セミナー報告書

昭和56年度協力隊紹介セミナーは、11月2日より18日まで16日間にわたり実施されましたが、チュニジアからの参加者が都合により来日が遅れたものの大過なく終了し、セミナー参加者5名は、18日及び19日の両日それぞれ無事帰国の途につきました。

この度、研修事業部を通じ上記5名より、別紙のとおり、最終報告書の提出ありましたので回覧します。

尚、同報告書を読んで要点を以下に特記します。

### (1) 参加者セミナー感想

一般的に素晴らしい。

理由① 研修期間中、面談した日本人は親切。紳士的で正直であった。  
(JOCV)

② セミナーを通じ協力隊の機構・展望・問題点等を概観・把握できただけでなくJICAの別の側面特に研修員受入事業についても見学・レクチャーを通じて理解が深まった。

③ 公的な活動視察に加え、日本の民間企業及び文化施設見学の時間があり、日本人の技術水準及び文化的素養の高さを自分の目で確認できた。

### (2) セミナー参加者からの要望事項

#### A 協力隊事務局に対して

① 隊員候補生の語学研修に関して2.5ヶ月の期間は短かすぎる。

特に、スペイン語・フランス語等、特殊語学の研修は最低4ヶ月程度必要とのコメントがあった(ガーナ・ベルーより)

② チュニジアの参加者からは、現在同国ではアラビア化が進行中で、フランス語は大学その他限られた機関でのみ使用されている現状であり、訓練語学にアラビア語を採用して欲しい旨要望があった。

#### B セミナーに対して

① 来日前のインフォメーションが不足で、特に研修期間中の生活費等の待遇について事前に周知して欲しい(ガーナ研修員からは生活費が低すぎるとの苦情が出た)

② 最終報告書は準備するには1日では不充分。2、3日の余裕が必要(ザンビア)

### (3) 評価

評価基準はA(excellent) B(good) C(fair)の3段階評価によったが、他機関での視察研修がおおむね好評で、Aの評価を得ていたのに対しては、回答者3名中2名(ネパール・ベルー)が1ランク下のBの評価をしている。(理由については残念ながら言及なし。)

又ネパールの参加者からは、研修の本来の目的(事業理解の増進)に対する受入側の理解が希薄であり、準備不足、フィードバックを欠く一方的な研修の押しつけの印象を受けると同時に結果として単なる親善使節にすぎないのかと自問させられた旨の、かなり手厳しい批評があった。

### (4) 担当者所見

協力隊紹介セミナー開催は今回が初めての試みであり、不備な点が見られたことは否めない。

まず、① ガーナより苦情の出た研修員の待遇に触れると今回の参加者は一般研修員扱いであったが、周知のとおり高級・準高級研修員との間には、滞在(生費)費で1日につきそれぞれ1万6千円、1万円前後とかなりの待遇差がある。今回参加の5名は各国協力隊員受入調整機関の次長、上級事務官(経済博士)、室長等比較的高位の職にあってかつ協力隊に限らず、専門家受入・研修員派遣等技術協力全般に係わる責任者であり、当該国に対する外交政策上、特段の配慮が必要と思われる。

特に、準高級の場合、本国政府中央官庁の課長又はこれに準ずる地位にある者という事業団の区分からいっ

て、今後、協力隊紹介セミナー参加者に対する等級の扱いは、再考の余地があると思われる。ただ、セミナーのような集団コースの場合、参加者全員の扱いを一律にするという制限がありむずかしい問題を含んでいるので、研修事業部と充分、協議し前向きに検討してゆきたい。

- ② 前述のネパール研修員の批評は傾聴に値すると思う。主催者側に「日本を見て感心して帰ってもらえば充分」式の安易でお座なりとも言える姿勢がなかったか？ 反省させられる点である。

セミナー担当として筑波センターまでの5日間、研修員と行動を共にした経験から言うと、中には物見遊山的な発言・行動が見聞きされなかった訳ではない（ガーナ研修員は自分がセミナーに來日したのは、セミナー終了後帰路を変更してスウェーデンに居る妻子を訪ねる為である旨の不謹慎な発言をしているのを耳にした。）が、やはり、大勢はネパール研修員のように明確な目的ビジョンをもって來日した人達であり、この機会に協力隊のファンになってもらうためにも、単なる事務的・形式的な紹介に留まるのではなく、専門家派遣等とは異なる協力隊の意義・本質を多少なりとも理解してもらうべく、事務局一岩となった対応が今後より一層必要になるものと考えます。

- ③ 最後に、技術的手法について言うと、やはり、セミナーの主目的とは何と言っても協力隊事業の一層の理解にあることを考えると、協力隊映画の上映もなく簡単なパンフレット、資料の配布と説明に終わってしまったのはさびしい感じがする。協力隊に於るセッションが不評を買ったのは、一つにはこの辺にあるのではないか。

英文による協力隊紹介フィルムでもあれば申し分ないが、必要な予算措置が困難である以上、現在あるフィルム・スライド等を使い、英語によるナレーションは語学講師に委託して準備する等、最小限の予算と、最大限の創意工夫をもって次回のセミナーに備えたい。

以 上

J O C V 紹 介 セ ミ ナ ー 研 修 日 程

期間56.112~1.118 研修監理員 岡田孝子

月日曜	研 修 日 程	宿 泊 場 所	訪 問 先 担 当 等 及 び 備 考
11.2月	研 修 員 本 部 来 日	淡路町グリーンホテル	
3火	"	Tel 03-295-4161 ¥ 4,900	
4水	(10~12) JICA打合せ、担当理事表敬 外務省技術協力課表敬 (14~)		
5木	(10~12) JOCV事務局表敬、事務局事業説明、帰国隊員との懇談会 (13~14) (18~20)		地下鉄 広尾下車 Tel 400-7261 国内課 鈴木
6金	東京 → 国内 神奈川県庁訪問、関内 → 追浜(移動)		神奈川県庁 国際交流課 宮台主事
"	日産自動車横浜工場見学		日産自動車 Tel 0468-65-1123 内 2896 中島主事
7土	Free		
8日	(14~) 東京 → 牛久 筑波インターナショナルセンター見学及び懇談会 (14~15)	ホテルサンリッチ ¥ 4,900 Tel 0298-52-3031	筑波インターナショナルセンター Tel 02975-6-1111 研修課長 橋本
9月	(10~12) 筑波国際、農業研修センター見学 地質調査所見学 (14~15)		筑波農業国際研修センター Tel 02975-6-1771 総務課長 大野
"	(15~16) 筑波学園都市見学。牛久 → 東京	淡路町グリーンホテル	地質調査所 Tel 0298-54-3521 本館企画、鈴木
10火	東京 → 駒ヶ根 JOCV 駒ヶ根訓練所見学	駒ヶ根グリーンホテル	長野県駒ヶ根市赤穂 Tel 02658-2-2160 粕谷所長
11水	(10~12) 訓練所長説明 (13:30~15) 訓練所留学施設見学	Tel 02658-3-1141 ¥ 4,400	
12木	駒ヶ根 → 大阪(移動日)	東急イン Tel 06-315- ¥ 5,200 0109	
13金	(10:30~) JICA関西支店訪問事業説明 (14~15)		関西支部 Tel 06-345-3621 担当 結川
"	松下電機技術館見学		松下電機 Tel 06-282-5540 待機開発室 大浦
14土	(9~) 京都文化施設見学	京都パレスサイドホテル Tel 075-431-8171	
15日	(10~) 奈良文化施設見学		
16月	10:37 13:08 京都 → 東京(移動日)	淡路町グリーンホテル	
17火	(10~) JICA研修報告、JOCV 研修報告・最終協議 (14~16)		
18水	研 修 員 帰 国		

## 研 修 監 理 報 告

### (1) 通 訳 率

※ 半日を1単位として記入

講義・実習数(A)※	講師による英語講義・実習数	監理員による通訳講義・実習数(B)	B/A (%)
32	30	2	94%

### (2) コメント

イ．研修面 各国のJOCV受入の窓口機関所属の人が参加して、JOCVの訓練状況、機構、性質などを現実に観て今後の相互理解に、役立てる主旨で企画された初めてのセミナーであった。各研修員とも、非常に熱心で、JOCV事務局、駒ケ根訓練所では特に、スタッフとの直接のQ&Aでは、具体的で意をつく内容のものがなく答える側が、少々苦勞している面もあったようだった。受入側の研修員受入れの用意が充分でなかったところもあったように思う。チュニジアの研修員が1人だけ1週間程遅れて参加するという事態があった以外には予定通りで、時間的配分も適当であったと思う。京都・奈良方面の見学に2日間かけたのにはあまり有効でないとの意見もあり、その分を広島原爆記念館見学にまわしてほしいというものも出た。

ロ．生活面 東京の淡路町G. Hotelを基点に筑波、駒ケ根・関西旅行と出かけたが非常に荷物の件などで便利であった。旅行中京都のパレスサイドホテル以外は好評で適当な宿泊施設であった。短い期間であったので、買いものや、日本の日常生活に触れる時間が少なかったが、その中で、楽しく皆仲良くやっていたようだ。アフリカからの研修員とアジアよりの研修員とは意見のくいちがいが少々見られたが、生活面では何の障害もなく、協力的であった。

J-特2	コース名： (特設)ASEAN食品加工	定員 10名																																				
<p>受入期間： 56. 10. 29～56. 12. 15</p> <p>関係省庁： な し</p> <p>受入機関： 兵庫インターナショナルセンター</p> <p>国別応募状況：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>国名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> <th>国名</th> <th>応募数</th> <th>受入数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インドネシア</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>マレーシア</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>タイ</td> <td>3</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フィリピン</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シンガポール</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数	インドネシア	2	2				マレーシア	2	2				タイ	3	3				フィリピン	2	2				シンガポール	1	1			
国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数																																	
インドネシア	2	2																																				
マレーシア	2	2																																				
タイ	3	3																																				
フィリピン	2	2																																				
シンガポール	1	1																																				
<p>受入担当： 立石 俊一・大志万（兵庫インターナショナルセンター）</p> <p>コーディネーター： 片岡 牧子</p>																																						



## 昭和56年(特設)ASEAN 食品加工研修コース

### 実 施 概 要

#### 1. 主 旨

最近のわが国をとりまく世界情勢を鑑みて、開発途上国に対する政府開発援助(ODA)の充実・拡大が叫ばれている昨今、アジアの平和と繁栄に貢献できる道は、国際協力を通じて、ASEAN諸国との友好関係を強化し、相互理解を深め信頼関係を保ち、お互いに協力しあえるような国際環境を育成して、平和と繁栄の構築に寄与することに他ならない。

ついては、ASEAN側は客年10月の第二回日・ASEAN技術移転・エネルギー協力専門家会合にて「食品加工研修コース」について協議され、今年度(56年度)における開設方要請越したものである。

食糧の自給と住民の栄養要求の実現はASEAN5ヶ国の国家開発には最優先として重要なものである。伝統的(伝来)技術の近代化と食品加工における最新の科学技術の導入は、ASEAN5ヶ国の食糧生産・増産能力の増大には必要欠くべからざるものである。

本研修は、食品加工技術の内因的将来性(可能性)を発展させるように意図されているものである。

#### 2. 目 的

- 1) ASEAN諸国の食品加工技術のノウハウの高揚
- 2) ASEAN諸国の食品加工技術の開発及び応用能力の増進

#### 3. 期 間

昭和56年10月29日～12月15日(1.5ヶ月)



10 月

No. 1

月/日	曜日	研 修 項 目	研修指導機関	講 師	研 修 実施場所
10/16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29	木	来日（東京・成田）			
30	金	来日手続 ブリーフィング	JICA		
31	土				

月/日	曜日	研 修 項 目	研修指導機関	講 師	研 修 実施場所
11/ 1	㊦				
2	月	A. M. 研修実施日程説明 ( 講義 ) 食生活と栄養	J I C A 東 京 大 学	H I C 担当者 豊 川 裕 之	※
3	㊦				
4	水	農林水産省オリエンテーシ ョン			東 京
5	木	( 講義 ) ( 見学 ) 食品総合研究所	農 水 省		筑 波
6	金	( 講義 ) ( 見学 ) "	"		"
7	土	( 見学 ) 筑波大学 応用生物化学系 P. M. ~東京 ~ 神戸			"
8	㊦				
9	月	ブリーフィング・諸手続	J I C A		H I C
10	火	( 講義 ) 日本人の食生活に ついて	東洋食品工業 短 期 大 学	大 塚 滋	"
11	水	( 講義 ) 畜産資源の現状と 課題	三 井 物 産	深 山 光 男	"
12	木	( 講義 ) 農産資源の現状と 課題	京 都 大 学	嘉 田 良 平	"
13	金	( 講義 ) 水産資源の現状と 課題	東 北 大 学	金 田 尚 志	"
14	土	( 見学 ) 果実の加工・貯蔵	和歌山県経済農業協同組合 連合会 海南・桃山食品工場		和 歌 山
15	㊦	( 見学 ) 真珠の養殖	ミキモト パールアイランド		鳥 羽

11 月

No. 3

月/日	曜日	研 修 項 目	研修指導機関	講 師	研 修 実施場所
11/16	月	(講義) 醗酵食品	大 阪 大 学	上 田 隆 蔵	H I O
17	火	(講義) 食品の栄養評価	大阪環境科学 研 究 所	大 柴 恵 一	"
18	水	(講義) 果実・野菜(缶詰) の加工技術	"	下 田 吉 夫	"
19	木	(講義) 水産物(缶詰)の 加工技術	"	長 田 博 光	"
20	金	(講義) 穀類の加工工程 (見学) (製粉技術)	日清製粉 神戸第二工場		神 戸
21	土				
22	日				
23	日	新神戸～広島 (原爆平和記念館) ～小郡 ～ 東萩			
24	火		山口県外海水産試験場 " 栽培漁業センター		長 門 "
25	水	中国・九州地方研修旅行	藤光カマボコ工業		長 門
26	木		ロイヤル		福 岡
27	金		相 浦 缶 詰 ～長崎		佐 世 保
28	土			～熊本	
29	日	熊本 ～ 大阪 ～ 神戸			
30	月	(講義) 冷凍食品と検査 (見学)	日本冷凍食品 検 査 協 会	田 中 良 知	神 戸

月/日	項目	研修項目	研修指導機関	講師	研修実施場所
12/ 1	火	(講義) 乳製品の加工工程 (見学)	森永乳業 阪神工場	山本 英雄	西 宮
2	水	(見学) 食肉製品の加工工程 乳酸菌飲料の "	雪印食品 宝塚工場 ヤクルト本社 宝塚工場		宝 塚 "
3	木	(見学) 園芸加工品製造工程 食品流通システム	明治屋 食品工場 日本冷蔵 高槻食品工場		茨 木 高 槻
4	金	(見学) 植物たん白加工工程 品質管理と分析機器	江崎グリコ栄食 京都工場 島津製作所 分析センター		京 都 "
5	土				
6	日				
7	月	(講義) 食品とたん白栄養	神 戸 大 学	団 野 源 一	H I C
8	火	(見学) 神大農学部	"		神 戸
9	水	見学及び 総括ディスカッション	東洋食品工業短期大学 東洋食品研究所		川 西
10	木	"	"		"
11	金	(4コース) 合同閉講式・国際親善パーティー			神戸商工 貿易セン ター
12	土	神戸～東京			T I C
13	日				"
14	月	帰 国			"
15	火	最終帰国日			

## 担 当 所 見

本研修は食品加工技術の内因的将来性（可能性）を発展させるように意図されており、1）ASEAN 諸国の食品加工技術のノウハウの高揚。2）ASEAN 諸国の食品加工技術の開発及び応用能力の増進を目的とする為、プログラムには、講義、見学、研修旅行を通して可能な限りの食品加工技術に関する広い分野の研修実施を必要とした。

しかしながら、研修期間が1.5 カ月と短期間であり、広範囲の食品加工技術に関する研修が実施された為に非常にきついスケジュールになり、数人の研修員からもそのような評価があった。受入先の大部分は例年当センターで実施されていた食品加工エースと同じ受入先であったので比較的しっかりした対処であった。生活面では、短期短期間コースで日本語講座もなく、普段日本人と接する機会が少なかったが、少なくとも研修を通じて講師や見学先の方たちから又、研修旅行中に自分たちが感じ取った日本人の生活様式、風習等から、日本に対する理解を深め今後の国際協力に何らかの興味を持ったことは確かである。

## 改善・検討すべき課題

1. 研修期間が短かすぎる。
2. 食品工場等で1週間程度の実習。

研修内容評価集計表  
食品加工（特設）

月日	区分	研 修 内 容	講 師 名	評 価 A B C
11/2	講	食生活と栄養	豊 川 裕 之	8 2
4		農林水産省オリエンテーション		2 1 1
5	見	食品総合研究所		5 5
6	"	"		4 5
7	"	筑波大学応用生物化学系		2 5
10	講	日本人の食生活について	大 塚 滋	2 7
11	"	畜産資源の現状と課題	深 山 光 男	6 4
12	"	農産資源 " "	嘉 田 良 平	4 4 2
13	"	水産資源 " "	金 田 尚 志	2 8
14	見	和歌山県青果農業協同組合連合会 他		4 6
16	講	酸 酵 食 品	上 田 隆 蔵	1 8 1
17	"	食品の栄養評価	大 柴 恵 一	7 3
18	"	果実・野菜（缶詰）の加工技術	下 田 吉 夫	4 6
19	"	水産物（缶詰）の加工技術	長 田 博 光	2 8
20	見	穀類の加工工程（製粉技術）		4 6
21	"	キッコーマン株式会社 関西工場		4 5
23				
24	研修旅行	(見) 山口県外海水産試験場		1 7 2
		" " 栽培漁業センター		
25		(見) 藤光かまぼこ工業㈱		5 5
26		(見) ロイヤル㈱		3 7
27		(見) 相浦缶詰㈱		4 5 1
28				
29				
30	見	日本冷凍食品検査協会		9
12/1	見	森永乳業㈱阪神工場		2 8
2	"	雪印食品㈱宝塚工場		2 7 1
2	"	ヤクルト本社宝塚工場		3 6
3	"	明治屋食品工場	研究旅行	1 8
3	"	日本冷蔵 高槻食品工場		1 8
4	"	江崎グリコ栄食 京都工場		2 8
4	"	島津製作所 分析センター		1 8 1
5	"			
7	講	食品とたん白栄養		1 6 2
8	見	神戸大学 農学部		10
9	"	東洋食品工業短期大学、東洋食品研究所		5 5
10	"	" "		5 5







